



(ふりがな)

児童氏名: _____ 生年月日: _____ (才)

記入日: _____ 年 _____ 月 _____ 日

スコア換算法

各感覚領域のスコア合計を算出します。次に、合計点の右側に示されている換算表より、合計点を3段階評価尺度へ変換します。

この評価尺度は、4才から6才までのお子さんを対象に保護者が評定した場合のデータをもとに作成しています。対象児が、この年齢にあてはまらない場合、また保護者以外が評定した場合、その解釈には、注意が必要です。

Green	典型的な状態 (約75%の子どもたちに見られる状態です)
Yellow	若干、感覚刺激の受け取り方に偏りの傾向が推測される状態 (約20%の子どもたちに見られる状態です)
Red	感覚刺激の受け取り方に偏りの傾向が推測される状態。すなわち、ある刺激に対して過敏であったり、鈍感であるような状態 (約5%の子どもたちに見られる状態です)

感覚領域の分析

	合計点	Green	Yellow	Red
前庭感覚		~24	25~34	35~
触覚		~30	31~46	47~
固有受容覚		~9	10~15	16~
聴覚		~9	10~18	19~
視覚		~13	14~22	23~
嗅覚		~2	3~7	8~
味覚		~5	6~10	11~
その他		~12	13~21	22~
総合点		~109	110~157	158~

使用上の注意

- 1) JSI-Rは、あくまでも行動の特徴/特性を捉えるためのもので、行動の優劣を測定するものではありません。
- 2) JSI-Rの結果は、必ずしも感覚刺激の受け取り方の偏りだけを反映するものではありません。
- 3) 感覚統合機能の評価のためには、JSI-Rの結果のみならず他の検査、観察より総合的に判断する必要があります。
- 4) JSI-Rは、評定者が異なる場合、その結果に差が見られることがあります(例えば、ある児童を保護者と療育者で評定した場合など)。
これは、各々の評定者が、対象児童の別の行動側面を把握しているために生じると考えられます。対象児童の包括的な理解のために、JSI-Rは、立場の異なる複数の評定者によって施行されることをお勧め致します。
- 5) JSI-Rを療育(治療)効果測定的手段として用いる場合、同一評定者による結果を用いて比較されることを強くお勧め致します。
- 6) このサマリーシートは、今後の研究成果を反映し更新される可能性があります。
下記ホームページより絶えず最新版を入手し使用されることをお勧めいたします。

